

社会に喜びの輪を広げよう 国際共生社会の創造のために

古事記に「八雲立つ出雲八重垣…」とうたわれた島根県八雲村。いまな大都市化にほど遠いが、同村に本社を置く小松電機産業株式会社は国内はもちろん、海外からも熱い注目を集めている。社長は小松昭夫氏。もともとエンジニアだが、ユーザーニーズをつかみ、自動制御技術を駆使した高速シートシャッターや集落排水制御システムなどの大ヒットハイテク製品を次々と開発。それだけでなく、「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」の社是のもと「国際共生社会の創造」の具体的な行動を展開中だ。

「八雲立つ出雲八重垣、妻ごみに八重垣つくるその八重垣を」の歌は素戔嗚尊が詠み、和歌のはじまりともいわれるが、その伝承を地名とした八雲村は県都松江市から車で約十五分。地元の人が「まだまだ開けてません」というように純朴な風が残る環境。この地からハイテク技術を駆使した創造的製品、技術情報が発信され、国内ばかりでなく、海外にもきわめて高い評価を画き続けている。小松昭夫氏は松江工業高校を卒業後、地元の大手農機メーカーに勤めていたが、就職後八年目で同メーカーが倒産、二年間大阪の企業でマネジメントのノウハウを学んだあと、小松産業（現小松電機産業の前身）を弟（光雄氏、現専務）と二人で設立した。「大阪での二年間、石にかじりついていなくてもなんらかのきっかけを掴もうと後のない船出だった」。だが会社設立といっても当初資金は失業保険金十数万円と五万円の中古ワゴン車一台のみ、実家の納屋十畳に本社を置きポンプ修理業からスタートした。とはいっても過疎地での細々とした

仕事の連続だったが、七七年（昭和五二年）に水道関係の自動制御計測システムの研究開発に着手し、テレメーター遠方監視装置付きポンプ制御計装システムの開発に成功。水道計装とは取水―浄化―塩素減菌―配水池―配水の工程を制御するもので、水質管理から流量のチェックまで通信回線を利用して集中管理するシステム。そのころ進められていた島根県内の「くにびき国体」の開催準備を機に簡易水道に簡単に取り付けられる小松方式の計装システムへの需要が爆発的に伸び、ここで企業としての第一の関門を突破した。つづいて全国の工場、倉庫から熱い注目を受けたのがオリジナル商品の高速シートシャッター「門番」である。この製品は倉庫や工場の出入り口で製品や資材などの搬入、搬出が多く、つねに開閉が繰り返される開口部に適したもので、高速で開閉することで、搬入出作業の高能率化のほか、屋内の冷暖房の熱を外部に逃さず、屋外のゴミ、ホコリの流入を防ぐなどの効果がある。つまり防寒、省エネ、空調、防虫、防塵、防音の各面ですぐれた能力を発揮。食品、印刷、プレス、鋳物、精密機械、

株式会社

小松電機産業

本社／島根県八雲村東岩坂一八〇
TEL・0852・54・1166



代表取締役社長
小松昭夫

昭和19年、島根県生まれ。38年県立松江工業高校機械科卒、48年小松産業を創業、54年小松電機産業設立、平成元年協同組合テクノくにびきを設立。中小企業研究センター賞、ニュービジネス協議会大賞、日刊工業新聞社優秀経営者顕彰地域社会貢献者賞受賞、科学技術庁注目発明選定証受証。

プラスチック成型、冷蔵倉庫、化学・薬品、物流などの工場、倉庫から注文が相つき、同社の主力製品にのし上がってきた。九〇年(平成二年)には通産省中小企業庁の外郭団体である社団法人中小企業研究センターから優良中小企業として島根県では初の表彰を受け、さらに社団法人ニュービジネス協議会から大賞を受賞した。ポンプ制御計装システムにつづく「門番」で社業は大きく躍進したが、九二年(平成四年)には集落排水計測、制御、監視システム「やくも水神」を開発、さらに九四年には自動制御システムと排水処理施設をセットした実用プラント「NEWやくも水神」を建設した。この「やくも水神」について小松社長は、「私のライフワークともいえる製品です。松江は宍道湖、中海によって生かされてきましたが、近年、湖の汚染がひどくなっていました。中国山地の各市町村から生活排水が流れ込むのが原因です。地球は水球



第1回「神在月縁むすび世界大会」でのパネルディスカッション(右端が小松社長)。

で人間は水によって生かされています。この大切な水の浄化が地球生命を守ることになると思っていますが、こうした願いから水浄化システム研究をスタートさせたわけです」と語る。

画期的な「やくも水神」

「やくも水神」を簡単に説明すると、広範囲に分散している処理施設やポンプ場などを通信用ネットワークで結び、役所など管理機関に設置したホストコンピュータでデータを一括監視するもので、各施設では流量・残留塩素・濁度などのデータを計測し、最大一五カ所の上下水処理施設と五〇カ所の中継ポンプ場を監視できるため、深刻な問題である技術者不足の解消に役立つ。データは公衆電話回線で通信されるので、専用回線より五〇%以上も安くなる。このシステムはわが国初の

もので科学技術庁の第五十四回「注目発明显定証」を受証した。年間三〇万件を上回る国内発明のなかから一〇〇点選ばれたなかの一つで中小企業で受証するのは稀といわれる。このシステムに水処理を付加した実用プラントが「NEWやくも水神」。水の処理には連続式と回分式がある。水処理場に流れてくるのは汚水と活性汚泥だが、回分式は機械曝気装置で汚性汚泥をよくかき混ぜ、窒素、リンなどの物質を除去し水質を再生させる。「NEWやくも水神」の建設費は従来の三分の一。同社のデータでは窒素が〇・九一ppm、リンの除去率は七〇・一%と飛躍的に改善された。公の排水基準は宍道湖・中海関連流域で一日平均約二〇ppm、農業用水で一ppm。したがっていままでの施設では再利用できなかった排水を小松電機産業の新しいシステムは農業用水として再利用を可能にする画期的なものである。しかしこうした新規技術が誕生すると権益を守るための関連業者の妨害もあるほか、規制、規制で水質データのオープン化、共有化の考え方がなかなか受け入れられない面もある。しかし時代は大きく変わりはじめ、このシステムはさらに注目を集めることになろう。

小松氏は利潤追求の企業活動による付加価値の時代から人間・自然・科学の新しい関わりを見直し本物の価値創造をなすべきだとし「H(ヒューマン)N(ネイチャー)S(サイエンス)研究所」を設立、奨学金制度、一村一志運動、創業者支援など多彩な活動をスタートさせた。また平成七年十一月、松江市のくにびきメッセを会場に国内外の有識者を招き出合いと議論のなかから、共通の目標を生み出し、それを世界へと提言すべく信頼関係を築く世界フォーラム第一回神在月「縁むすび世界大会」を開催、内外から六百人が参加した。

「人と自然との関わりを考えることを根幹として高い志と共感のネットワークを全国に、全世界に広げたい」

グローバルな人づくりの実践が進んでいる。